

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

冬季観光充実・強化による地方創生推進プロジェクト

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

十和田市

### 3 地域再生計画の区域

十和田市の全域

### 4 地域再生計画の目標

#### 4-1 地域の現状

十和田市は青森県の南南東に位置し、特別名勝及び天然記念物に指定されている「十和田湖」、「奥入瀬溪流」をはじめ「鳶沼」などのすばらしい景色を見せる大自然を有しており、県を代表する観光地である。また、「にんにく生産量日本一」を誇るなど、農業も盛んであり、観光業と農業が基幹産業である。

十和田湖や奥入瀬溪流の玄関口にあたる焼山地区までは、JR七戸十和田駅及び三沢空港から車で約1時間と至便の距離にあり、全国各地から毎年約200万人もの観光客が訪れている。また、近年では東南アジアを中心とした外国人観光客も増加している。

十和田湖・奥入瀬エリアは温泉地としても知られ、本エリアには多くの温泉宿や民宿、ホテルが営業し、土産物屋も立ち並んでいる。体験型観光のメニューとしては「十和田湖遊覧船」、「十和田湖カヌー」、「奥入瀬トレッキング」、「スノーランブリング」などの大自然を満喫できるものが揃っている。また、焼山地区では冬季に「十和田湖温泉スキー場」が開設され、スキーやスノーボードを楽しむことができる。

#### 4-2 地域の課題

本市の主要な観光地である十和田湖・奥入瀬エリアの観光入込客数は春季から秋季にかけて集中しており、同エリアにおける年間観光入込客数に対する冬季の割合は約13%と著しく低くなっている。また、本市の冬季宿泊客数も年間宿泊客数に対して約14%と、冬季の誘客が課題となっている。

冬季の観光客が少ないことから、冬期間営業できない宿泊事業者も多く、また、アクティビティも冬期間に実施できないものも多いため、年間を通して安定した雇用の場を提供できておらず、若者が流出する原因の一つとな

っている。

したがって、本エリアの冬季の魅力を伝えて誘客を図り、ひいては宿泊につながる事業の構築が必要である。

○十和田八幡平国立公園（十和田地区）入込客数

単位：人

1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計
77,959	73,568	59,710	130,321	204,629	147,036	2,005,099
7月	8月	9月	10月	11月	12月	
188,277	300,518	287,009	376,534	115,128	44,410	

(平成27年 青森県観光客入込客統計より)

○十和田市宿泊者数

単位：人

1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計
7,715	11,650	10,435	18,334	27,372	24,871	275,190
7月	8月	9月	10月	11月	12月	
28,306	40,509	32,792	41,521	22,511	9,174	

(平成27年 十和田市宿泊統計より)

4-3 目標

本事業は、本市が有する大自然の特徴を活かし、奥入瀬溪流において冬期間にしか見ることができない自然景観を鑑賞できる環境を整えることで観光入込客数及び宿泊客数の増加に繋げ、年間を通じた安定した雇用の創出を図り、人口の維持、減少の緩和に資することを目的とする。

また、観光客の滞在時間の延長及び満足度向上を図るため、市営の「十和田湖温泉スキー場」を活用し、外国人観光客も気軽に体験できる雪を楽しむ新たなコンテンツを創出することで、新規来訪者の獲得及び再訪者の確保に努め、本市の冬季観光の振興を図る。

【数値目標】

事業	冬季観光充実・強化による地方創生推進プロジェクト	年月
KPI	十和田市冬季宿泊者数 (12月～3月)	
申請時	44,529人	H29.3
初年度	50,000人	H30.3
2年目	55,000人	H31.3

3年目	60,000人	H32.3
-----	---------	-------

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

5-2 (3) に記載

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

(1) 事業名：冬季観光充実・強化による地方創生推進プロジェクト

(2) 事業区分：観光業の振興

(3) 事業の目的・内容

(目的)

本事業は、本市が有する大自然の特徴を活かし、奥入瀬溪流において冬期間にしか見ることができない自然景観を鑑賞できる環境を整えることで観光入込客数及び宿泊客数の増加に繋げ、年間を通じた安定した雇用の創出を図り、人口の維持、減少の緩和に資することを目的とする。

また、観光客の滞在時間の延長及び満足度向上を図るため、市営の「十和田湖温泉スキー場」を活用し、外国人観光客も気軽に体験できる雪を楽しむ新たなコンテンツを創出することで、新規来訪者の獲得及び再訪者の確保に努め、本市の冬季観光の振興を図る。

(事業の内容)

#### ①奥入瀬溪流冬季景観魅力アップ事業

十和田八幡平国立公園の中でも特に美しい自然景観を有する奥入瀬溪流において、氷瀑・氷柱を始めとした冬にしか見ることができない自然景観を、「冬の奥入瀬自然観察ツアー」として観光客が気軽に楽しめるよう提供する。

「冬の奥入瀬自然観察ツアー」は、日中は「奥入瀬ネイチャーガイドツアー」として冬の奥入瀬溪流の自然等の解説・案内を行うネイチャーガイドが同乗するシャトルバスを運行し、夜間は「奥入瀬氷瀑ナイトツアー」として、夜の奥入瀬溪流をさらに魅力のある景観として

演出するため見所となる箇所を照明器具で照らし、冬季にしか見ることができないプレミアムな冬景色として国内外からの誘客を促進し、宿泊事業者を始めとした本市の観光関連事業者の収入増加並びに雇用の拡大を図る。

## ②十和田湖温泉スキー場スノーアクティビティ充実事業

市営のスキー場である十和田湖温泉スキー場において、スキーやスノーボード以外にもスノーチューブやそり遊びなど観光客が気軽に雪を楽しむことができる各種スノーアクティビティを提供できるエリア（スノーパーク）を整備し、特に台湾などインバウンドをターゲットとした新たな誘客促進策の一つとして冬季の観光コンテンツを創出する。

①及び②の事業の実施場所は近接しており、日中はスキー場でのスノーアクティビティと奥入瀬渓流での「奥入瀬ネイチャーガイドツアー」、夜は「奥入瀬氷瀑ナイトツアー」と、エリア内で日中も夜も楽しめる冬季の観光コンテンツを提供することにより、冬季の観光客の増加を相乗的に促進させる。

### →各年度の事業の内容

#### 奥入瀬渓流冬季景観魅力アップ事業

初年度) 奥入瀬渓流の夜間の氷瀑・氷柱をライトアップできる機器等を整備するなど観光客が冬季に奥入瀬渓流を鑑賞できる仕組みの構築を行い、鑑賞機会の提供を行うほか、写真や動画などプロモーション素材の整備を行う。

2年目) 初年度の実施結果の成果や課題を検証し、改善を図りながら初年度に引き続き観光客への鑑賞機会の提供及びプロモーションを実施する。

3年目) 2年目までの実施結果の成果や課題を検証し、改善を図りながら引き続き観光客への鑑賞機会の提供及びプロモーションを実施する。

#### 十和田湖温泉スキー場スノーアクティビティ充実事業

初年度) スキー場内の一画に、スノーアクティビティ体験用のエリア（スノーパーク）を整備するための計画を作成する。

2年目) スキー場内の一画に、スノーアクティビティ体験用のエリ

ア（スノーパーク）を設け、体験者用の登坂機等を整備し、サービスの提供を開始する。

3年目）スノーアクティビティ体験用のエリア（スノーパーク）を拡張し、2機目の登坂機を整備するとともに、初年度の実施結果の成果や課題を検証し、サービスの提供及びプロモーションを行う。

（4）地方版総合戦略における位置付け

本市のまち・ひと・しごと創生総合戦略においては、「地域における安定した雇用を創出する」ことを基本目標の一つとして定めており、「冬季観光充実・強化による地方創生推進プロジェクト」は、その目標を達成するために取り組む事業である。また、総合戦略の数値目標として年間観光客入込数（現状 271 万人→平成 31 年 300 万人）を定めており、本プロジェクトは、まさにこの目標の達成に直接寄与するものである。

（5）事業実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

事業	冬季観光充実・強化による地方創生推進プロジェクト	年月
KPI	十和田市冬季宿泊者数 (12月～3月)	
申請時	44,529人	H29.3
初年度	50,000人	H30.3
2年目	55,000人	H31.3
3年目	60,000人	H32.3

（6）事業費

（単位：千円）

奥入瀬溪流冬季景観魅力アップ事業	年度	H29	H30	H31	計
	事業費計	35,026	20,322	15,000	70,348
区分	委託料	17,635	20,322	15,000	52,957
	備品購入費	17,391	-	-	17,391

(単位：千円)

十和田湖 温泉スキ ー場スノ ーアクテ ィビティ 充実事業	年度	H29	H30	H31	計
	事業費計	-	16,200	15,000	31,200
区分	委託料	-	16,200	5,000	21,200
	備品購入 費	-	-	10,000	10,000

(7) 申請時点での寄附の見込み

(単位：千円)

	H29	H30	H31	計
株式会社三沢奥入瀬観 光開発	10,000	10,000	10,000	30,000
宝産業株式会社	10,000	10,000	10,000	30,000
計	20,000	20,000	20,000	60,000

(8) 事業の評価の方法 (PDCA サイクル)

(評価の手法)

事業の実施状況及び効果等について、産官学金労言等から構成される「十和田市外部評価委員会」において検証し、PDCA サイクルを継続することにより事業の見直しや改善を図る。

※「十和田市外部評価委員会」

…十和田市町内会連合会、十和田市社会福祉協議会、とわだ市民活動ネットワーク、十和田おいらせ農業協同組合、十和田商工会議所、北里大学獣医学部、金融機関（青森銀行、みちのく銀行）、ハローワーク三沢（十和田出張所）、連合青森上十三地域協議会、報道機関（東奥日報、デーリー東北）

(評価の時期・内容)

毎年度9月に外部有識者「十和田市外部評価委員会」による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。

(公表の方法)

毎年度、市ホームページでの公表を行う。

(9) 事業期間

平成29年9月～平成32年3月

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当無し

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

該当無し

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成32年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

事業の実施状況及び効果等について、産官学金労言等から構成される「十和田市外部評価委員会」において検証し、PDCA サイクルを継続することにより事業の見直しや改善を図る。

※「十和田市外部評価委員会」

…十和田市町内会連合会、十和田市社会福祉協議会、とわだ市民活動ネットワーク、十和田おいらせ農業協同組合、十和田商工会議所、北里大学獣医学部、金融機関（青森銀行、みちのく銀行）、ハローワーク三沢（十和田出張所）、連合青森上十三地域協議会、報道機関（東奥日報、デーリー東北）

7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

毎年度9月に外部有識者「十和田市外部評価委員会」による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。

7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

毎年度、市ホームページでの公表を行う。